

世界のIT事情 タイ編

日本人観光客も多数訪れる“微笑みの国”。一方、4,000社にも上る日本企業が進出し、世界的にも成長が期待されているタイのIT状況をレポート。

急成長を見せるタイのIT バンコクではスマホが必須

国王が最も尊敬を集める仏教国。「マイペンライ（大丈夫、気にするな）」と、何でも気軽に済ませてしまう気楽さ。そして青い海と騒然としたバンコクの大渋滞。観光で行くには良いタイだが、ビジネスで訪れるとしたらどうか？

タイの国民一人当たりのGDPは、毎年右肩上がり、ここ10年で倍近くにもなっている。もちろん、アジアの中ではまだまだ発展途上国であり、政情不安に陥ることもあるが、国民の労働意識は高まっている。日本やアメリカに研修や留学する学生も急増中だ。

そんなタイのインターネット普及率は約35%で、アジアの中では高い方ではない。これがバンコクになると、約55%になるが、インフラ整備はまだ整っているとは言えない。日本と同程度の環境を求めるとコストも高くなりそうだ。しかし、携帯電話普及率は約140%にもなり、現在では、仕事からプライベートまで、多くの人スマートフォンを使う。携帯電話価格や通信料も安くなっており、必須のアイテムとなっている。

人気のSNSはFacebookやLINEで、2012年には、バンコクのFacebook利用者が約860万人と世界最多となった。

さらなるインフラ整備と 求められる技術吸収力

現在、タイに進出している日本企業は約4,000社にもなる。トップは自動車などを中心とした製造業だが、IT系の企業もかなり進出している。中国の人件費が高騰し、安い東南アジアに活路を求める企業が増加したことが大きい。

近年は、中国企業のタイ進出も活発化している。世界的に見ても、これからの成長が期待できる国だ。

情報インフラの整備は遅れているものの、ODAや政府の援助で今後、改善される余地は大きい。タイ進出のメリットはまさにここにあるといえるだろう。温暖な気候で日本に対する感情も良い。気楽につきあえる人間関係が、業務を円滑にしてくれる。ASEANの一角として重要なポジションを占め、労働者の意欲は高く、技術者のスキルもどんどん高まっている。まさにこれからの発展が望める国。それがタイだといえる。

今後の課題は、予想される人件費の高騰をどう抑えるかと、ITインフラの整備とともに安全意識と品質管理の意識を高めることだといえる。

また、タイでは情報の取り扱いに対する危機意識が薄く、情報流出の危険がつきまとう。この部分に注意して現地スタッフの意識を高めていけば、信頼度はより高くなるであろう。

参考資料：『日本人が意外と知らないアジア45カ国の国民性』（PHP研究所）、『タイを知るための72章』（明石書店）